

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
基本目標(1)学習情報の収集・発信										
(1)-1	○生涯学習情報の集約	サークル・団体紹介	市民のサークル・団体情報を集め(掲載を希望する団体)、冊子やホームページで情報提供する。	生涯学習課	引き続き、冊子を市内公共施設16か所に設置したほか、市ホームページで情報を公開した。また、冊子とホームページの様式を統一した。	市民のサークル・団体情報の提供につながっている。	特になし。	冊子とホームページの様式を統一したことで、より分かりやすくなった。	B:令和3年度並みの成果であった	引き続き、市民のサークル・団体情報を集め、情報提供を幅広く行う。
(1)-2	○生涯学習情報の集約 ○多様な手段での情報発信	生涯学習情報の集約・発信事業	市の生涯学習に関する情報を集約し、多様な手段で情報を発信する。	生涯学習課	引き続き、市HPのトップページのバナーに生涯学習関連施設を掲載している。	関連施設HPへのアクセスのしやすさが引き続き担保されている。	特になし。	市HPのトップページに公民館、図書館、財団3館のバナーを並べることで、生涯学習情報の発信が引き続き行われた。	B:令和3年度並みの成果であった	令和5年度は市ホームページがリニューアルされ、レイアウトが大幅に変わった。引き続き、情報発信手段について検討を進める。
(1)-3	○多様な手段での情報発信	公民館だより・図書室月報発行事業	公民館事業および公民館図書室の情報を提供するため、毎月1回広報誌を発行している。今後も公民館事業の発信および周知を図る。	公民館	公民館だより及び図書室月報を月1回発行した。公民館講座の募集記事や講座参加者の声、講演要旨、公民館図書室の新作図書や講座参考図書などの情報提供を行った。	公民館事業および公民館図書室の情報を毎月発行していることが市民に認知されており、広く情報を発信し、周知することができた。	公民館講座や施設利用の情報、講座参加者の声を知ることができて、読み物として学習に役立っているとの声があった。	新型コロナウイルス感染症予防対策として、利用上の注意点や会場定員の変更、オンライン講座の申込み方法や受講上の注意点を明記すると共に、利便性を鑑みホームページのQRコードの掲載を行った。	B:令和3年度並みの成果であった	令和4年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、公民館事業や公民館図書室についての情報提供を行っていきたい。
(1)-4	○多様な手段での情報発信	図書館広報事業	図書館事業の情報を市報や館報、ホームページを使って広く周知し、利用を促進する。	図書館	図書館広報誌「いんふおめーしょん」を12回発行、くにたちの教育の中の記事の掲載を4回、図書館HPによる広報を随時行った。	図書館で行っている事業の広報を通じて、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	適切に行えた。	B:令和3年度並みの成果であった	今まで通り実施していきたい。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A: 令和3年度より高い成果があった B: 令和3年度並みの成果であった
 C: 令和3年度より低い成果であった D: 令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
基本目標(2)学習機会の充実										
(2)-1	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもいを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を庁内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康まちづくり戦略室	市内11の自主グループが活動中。グループ同士の情報交換、交流の場を持つ目的で「百歳体操だよ!!全員集合!!」のイベントを実施した。17グループ71人が参加し、共に体操をした。	健康なまちづくりの醸成を図るため、自主グループの主体性を引き出すよう支援した。	「他のグループの様子を知ることができ、参考になった」、「大勢の人と体操ができて楽しかった」との声が聞かれた。	コロナ禍にありながらも、運動習慣を持ち、他者とのつながりを大切にできるよう、各グループを支援することができた。	B:令和3年度並みの成果であった	各グループへの訪問型運動指導を実施し、グループの体操がマンネリ化しないよう働きかける。
(2)-2	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	国立市青少年国内交流事業	国立市在住の小学6年生を国内に派遣し、歴史・風土・文化に触れ、平和・人権などについての相互理解を深める機会を提供する。	児童青少年課	新型コロナウイルスの影響により長崎現地訪問を中止。都内において東京大空襲・戦災資料センターを見学するなど、新たな研修を企画し学習を継続した。参加児童16名	戦争の悲惨さを学習することにより、平和・人権の大切さを児童が学ぶことができた。	保護者からは、代替事業を計画し、子どもの学びの機会を確保したことに対し感謝の言葉をいただいた。	現地訪問は叶わなかったが、代替事業を実施し、子どもの学びの機会を確保できた。	B:令和3年度並みの成果であった	長崎の現地訪問が実現できるよう準備を進める。
(2)-3	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	グローバルカフェ事業	カフェのような気軽な雰囲気の中で国立市内在住の中高生(企画により小学校高学年児童を含む)と一橋大学の留学生とが交流する機会をつくり、多文化共生の視点を持ち、国際人の一人として行動できる青少年を育成する。	児童青少年課	新型コロナウイルスの影響により、本来の参加定員15名を半数程度に減らしていたが、令和4年度第2回より定員を10名まで増やして全6回実施した。延べ参加人数81名(留学生含む)	留学生を講師として招き、参加した子どもが海外や多文化に触れることができた。	海外の方と普段話すことがなかったので、話ができて良かった。色々な国の文化や言葉に触れられて良かった。といった参加した子どもからの意見をもらった。	人数制限をしたものの、講師となる留学生を確保し事業を実施できた。	A:令和3年度より高い成果があった	本来の参加定員に戻して実施できるように準備を進める。
(2)-4	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	CMスタッフ事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、中高生自身の意見の発信や中高生の目線を取り入れた市の情報発信を行う機会を提供することで、中高生の市に対する理解を高めるとともに、社会への参画の意欲を高める。	児童青少年課	矢川プラスのプロモーションを目的として、視聴者に「なんだか気になるな、行ってみたいな」と思ってもらえるような動画を作成した。登録児童数 4名 取材・編集活動数 6回	市の事業を取材し広報するという体験を通じて、社会参画への意識向上に繋がった。	年間を通して、活動を楽しみ感じられるようになってきた。学校では、生徒の地域活動への参加が推奨されており、この活動は自分にとってプラスになった。という子どもからの意見をもらった。	矢川プラスオープンに合わせて動画作成ができた。	B:令和3年度並みの成果であった	子どもたちの意見を聞きつつ、市の事業に関心を持ってもらうこと、そして社会への参画の意欲を高めるための企画を検討する。
(2)-5	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	児童館小学生体験交流事業	小学生を対象に、遠足等の野外活動、工作・料理などの体験活動、焼き芋、風作り等の季節行事、合唱・劇団などのクラブ活動等の機会を提供することで、小学生の社会性や自律性を育む。	児童青少年課	新型コロナウイルス対策として、調理イベント、宿泊を伴うイベントは引き続き中止したが、その他は人数調整等対策を行い、実施した。	久しぶりに事業展開を図ることが出来、児童健全育成に寄与することができた。	デイキャンプやじどうかんまつりなど、児童館全体で展開するイベントも再開でき、喜ばれた	まだ人数制限等は必要だったものの、体験事業を様々な提供できたことは良かった	A:令和3年度より高い成果があった	制限がさらに緩和されるため、参加人数を増やすよう展開する

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(2)-6	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	青少年キャンプ事業	国立市内在住の小学5年生～中学3年生を対象に、松原村湯久保の古民家に宿泊し、豊かな自然の中での野外活動や学校の違う人と寝食をともにするキャンプを実施することで、自活力、コミュニケーション力を育む。	児童青少年課	宿泊事業は新型コロナウイルス対策として中止としたため、デイキャンプとして、内容を変えた2回を実施した。参加人数:11名 10名	宿泊事業としては参加人数が少なかったが、今回は日帰り参加しやすさもあったためか、参加人数が増加した	久しぶりの市外への館外事業でもあったため、喜ばれた	久しぶりの実施でもあり、参加者増加のために内容や周知も工夫した。結果的に参加者を増やすことができた。	A:令和3年度より高い成果があった	制限緩和の中で、宿泊も可能になる方向性から、宿泊事業としても参加者を増やすよう、内容、周知を工夫する
(2)-7	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	プレーパーク事業	国立市内在住の18歳までの児童が、ツリークライミングやロープ綱渡り、野外料理、ハイキングなどを行うことができる環境を整備することで、世代間交流の居場所を提供すると共に、児童の本来の力を引き出す機会を提供する。	児童青少年課	新型コロナウイルスの対策を取り、実施した。開催:48回 参加人数:延4,797名	まだ新型コロナウイルスの制限が多い中、比較的自由にできる機会提供となった。	自由に過ごせることで、喜ばれた。	自由な発想を保障することができた。	A:令和3年度より高い成果があった	制限が緩和されるため、コロナ以前に近い活動ができるように配慮する
(2)-8	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	高次脳機能障害者支援促進事業	高次脳機能しょうがいを持つ方の集いの場として、国立市障害者センターにサロンを開設し、楽しみながら脳のリハビリにもなる様々なプログラム(体操、調理、絵手紙、俳句、音楽、書道等)を実施している。	しょうがいしゃ支援課	毎週水曜日(祝日を除く)の13時30分～15時30分、全47回(令和4年4月1日～令和5年3月31日)実施。主に市役所の会議室で実施。	新型コロナウイルス感染症の影響下においても、感染予防を徹底して実施することにより、ほぼサロンを中止することなく継続し、高次脳機能しょうがいを持つ方を中心に集いの場を提供することができた。	安心して楽しく参加できる場として、当事者・家族や関係団体より評価いただき、今後の事業継続を期待されている。また、他自治体の視察やリハビリテーションを学ぶ学生の見学も多く受け入れている。また、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、感染予防を徹底しサロンを継続したことも、当事者より評価いただいた。	新型コロナウイルス感染症の影響下においても、サロンを実施、高次脳だよりを定期的に発行するなど、当事者とのつながりが切れないように実施した。また、会場は、3密に留意し感染症対策を行った上での実施継続となった。	B:令和3年度並みの成果であった	基本的には従来通りの会場参加形式でのサロンを実施する。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、ZOOMを用いたりモットサロンのみの実施も検討する。
(2)-9	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	家庭教育講座	子育てを学ぶ機会の減少など家庭教育を支える環境の変化により、子どもの保護者への負担が大きくなっている中で、家庭が抱えるさまざまな課題解決の一助とすることを目的に家庭教育講座を実施する。	生涯学習課	令和5年3月21日に家庭教育支援講座「家庭におけるメディアとの向き合い方」を開催し、17名が参加した。(会場とオンライン同時開催)	家庭でのメディアやゲームとの上手な付き合い方について関心の高い方へアプローチする講座として、学習機会の充実に資することができた。	実施アンケートでは、「家庭内でのコミュニケーションの重要性を実感した」などの声があった。	昨年度と比べ、参加人数は少なかったが、テーマに関心の高い方が集まり、参加者にとって学びの機会につながった。	B:令和3年度並みの成果であった	引き続き、市民の関心の高いテーマについて講座を実施していく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(2)-10	○ライフステージに応じた学習機会の充実	高齢者向け各種運動事業	高齢者向け社会体育事業として、健康体操教室、街を山を歩くを実施している。	生涯学習課	コロナにより事業中止(開催なし)	公共交通機関を利用した移動や高齢者基礎疾患等も配慮し事業を中止したため、計画の推進に貢献できなかった。	特になし。	公共交通機関を使用しない市内でのウォーキング事業や身体を動かす期間の提供等を検討していく必要がある。	D令和4年度未実施であった	令和5年度から再開することとし、準備を進めている。
(2)-11	○ライフステージに応じた学習機会の充実	女性・男性・親子・子ども・高齢者向けの事業	世代別および個別の学習機会を提供するため、世代別や性別に応じた様々な事業を展開する。	公民館	【実績】女性のライフデザイン講座(通年)や男性の料理講座(年2回)、親子講座(年6回)、シルバー学習室(通年)を実施した。	同じような課題を持つ人達と一緒に学ぶことで、目的意識を共有しながら学習していく機会を提供することができた。	令和3年度に引き続きコロナ対策として、人数制限や感染予防を行いながらの実施だったが、「毎週公民館へ通って学習するのが楽しい」「新しい仲間ができて嬉しい」という声があった。	令和3年度に引き続き、ソーシャルディスタンスを確保できる座席の配置と消毒、参加者への呼びかけ等の感染対策を徹底し実施した。料理講座は受講者を半分に分けて2回実施し、少人数対応とし感染対策に努めた。	B:令和3年度並みの成果であった	令和4年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、公民館事業や公民館図書室についての情報提供を行ってきたい。
(2)-12	○ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃ青年教室、しょうがいしゃPC事業	しょうがいのある者となし者が共に活動し、お互い学び合うことを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	しょうがいしゃ青年教室(126回)、年間交流行事(6回)、青年講座(2回)等を実施。	しょうがいしゃも年間交流行事の実行委員を務めるなど活動のなかで積極的に役割を担い、しょうがいの有無を超えてともに学び合い楽しみあう機会を提供することができた。	しょうがい当事者からは活躍の場が持てて嬉しい、保護者からはコロナ禍で地域と関係性を育むのが困難な状況のなか、青年教室の重要性を改めて実感したとの声をいただいた。	令和3年度に比べ対面で活動する機会を多く持つことができた。感染対策に留意しつつ、多様な学びの機会を提供した。	B:令和3年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-13	○ライフステージに応じた学習機会の充実	自立に課題を抱える若者支援事業	若者の自立や社会参画支援を目的として事業を展開する。今後も若者視線で関係機関と連携した共生の地域社会づくりを推進する。	公民館	【実績】中高生のための学習支援事業(37回)、自習スペースの設置(72日間)、NHK学園共催講座(5回)等を実施。	様々な背景を抱える中高生・若者に対して学習の個別支援や、彼らを支える人材を育む機会を提供することができた。	学習支援に参加する中高生からは、「学習習慣が身につくようになった」「大学生が親身になってくれて嬉しい」などの声があった。	市内での自習スペース設置の要望が高いことや、子ども・若者支援としての居場所づくりなどの目的から市民交流ロビーを活用して、中高生及び大学生等を対象とした自習スペースの提供を試行的に実施した。	A:令和3年度より高い成果があった	引き続き生徒への広報を行い、参加人数の増加を目指していく。
(2)-14	○ライフステージに応じた学習機会の充実	生活のための日本語講座、日本語教育入門、にほんごサロン	国籍・文化・言語などの違いを超えて暮らしやすい生活を送ることを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	【実績】生活のための日本語講座(231回)、日本語教育入門(8回)、にほんごサロン(12回)	地域に暮らす外国人への生活のための日本語学習の機会、地域で日本語支援をしたい人のための学習の機会を提供することができた。	日本語講座、にほんごサロンでは、日本語や日本文化について勉強でき、生活が楽しくなったという声、日本語教育入門では早く日本語ボランティアに参加したいという気持ちになった、との声があった。	受講者からの紹介を受けて新規受講につながるケースもあり、本講座等が受講者にとって内実のある学びとなっている様子が伺える。	B:令和3年度並みの成果であった	引き続き学習の機会を提供し、学習を通じて市民との交流もはかる。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(2)-15	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	児童サービス事業	子どもたちの学習や生活に役立つだけでなく、子どもの豊かな心の育成を目指し、推薦図書リストの作成、調べものの支援及び「えほんのじかん」「おはなしのじかん」「わらべうたであそぼう」などを実施している。また、中高生向けには、YAコーナーの展示や講演会の企画を実施している。対象は、子どもだけでなく、子育てにかかわる親や家族、先生、保育士、ボランティアも含む。	図書館	15歳未満児童一人当たりの児童書平均貸出冊数が18.9冊であった(15歳未満児童数8508人、児童書貸出冊数160710冊)。	児童が書籍を読むことで、家庭教育等の支援や、様々な考えに触れ、知識を吸収することを通じて、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	令和3年度における15歳未満児童一人当たりの児童書平均貸出冊数の20.2冊(15歳未満児童数8566人、児童書貸出冊数173270冊)と比較しても、令和4年度は令和3年度と同水準の成果だった。新型コロナウイルスの影響で実施できなかった幼児向け企画を再開することができた。	B:令和3年度並みの成果であった	引き続き実績を積み重ねていきたい。
(2)-16	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃサービス事業	図書館の利用や情報入手にハンディのある利用者へ、資料・情報の提供をし、生涯にわたる学習を担保するための事業。視覚障害者向け資料の選定・作成依頼、大活字本等の購入、音訳・点訳資料の貸出、宅配サービス、相互貸借(他館との協力による貸出)等を行う。	図書館	しょうがいしゃサービス利用登録者一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数が152.0冊だった(しょうがいしゃサービス利用登録者数14人、音訳、点訳資料貸出冊数2134冊)。	しょうがいしゃが書籍を読むことで、教育、文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるため、本重点施策の推進に貢献できた。	しょうがい等があっても図書の利用ができることを喜ぶ声や継続を望む声があがっている。	令和3年度におけるしょうがいしゃサービス利用登録者数一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数の133.0冊(しょうがいしゃサービス利用登録者数15人、音訳、点訳資料貸出冊数1994冊)と比較すると、令和4年度は平均貸出冊数の成果が上がった。	A:令和3年度より高い成果があった	今まで通り実施していきたい。
(2)-17	〇ライフステージに応じた学習機会の充実 〇各種団体との連携・協働	租税教室	児童・生徒が、租税の意義や役割を正しく認識し、将来、健全な納税者となることを願い、適正な申告と納税の重要性について理解させることを目的とし、教育関係者、国税・地方税当局、税理士会、法人会等との連携・協調の下で、「租税教室」を実施する。	収納課	未実施				D:令和4年度未実施であった	未定

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(2)-18	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	各種健康相談、健康に関する講話・講演会、啓発など	主に生活習慣病予防を目的に、健康に関する意識啓発、生活習慣や検査データの改善を図るための各種事業を、各種団体とも連携しながら実施する。	健康まちづくり戦略室	保健師・栄養士が関係機関と連携し、下記のとおり実施した。 ○食育講座(地場野菜と栄養)小学生対象 参加者67名 ○こころの健康づくり「SOSの出し方に関する教育」小中学生対象 参加者691人(22クラス) 「ゲートキーパー研修」教職員、市職員対象 参加者42名 ○薬物乱用防止推進活動中学生対象 ポスター応募点数29点 標語応募点数434点 ○ウエルエイジング～からだ測定会～ 歩行姿勢測定参加者98名、糖化度測定71名 ○重症化予防プログラム血管長持ち大作戦 40～74歳へのアプローチ 参加者6名、血管元気大作戦75～84歳へのアプローチ 参加者14名 ○健康ティータイム 1回開催	コロナ禍において心の健康づくりにも力を入れ、健康教育の対象は中学生へも広がった。保健事業と介護予防の一体的実施の取り組みが始まり、後期高齢者への重症化予防プログラムに新たに取り組んだ。	新事業のウエルエイジング～からだ測定会～では、参加者から「継続して運動をしようと思う」との声が聞かれた。	国立市で暮らすことで、自然に健康になれるような環境づくりに取り組む必要がある。引き続き多くの参加者が参加できるよう周知、勧奨にあたる。	A:令和3年度より高い成果があった	ウエルエイジング事業では地域訪問型の測定会も展開していく。
(2)-19	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	健康づくり推進員活動支援事業	健康寿命の延伸と健康なまちづくりを目標に、意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康まちづくり戦略室	・健康づくり推進員養成講座1回 5名 ・健康づくり推進員定例会1回22人 ・毎週火曜日第4公園オリジナル体操の推進参加者数2,183人	毎年推進員養成講座を開催する。	コロナ禍において、主な活動は、毎週火曜日のオリジナル体操であり、感染予防に留意しながら楽しく実施している。	養成講座を受講後、推進員の新規登録に至った参加者も複数名見られた。また、コロナ禍において市民の活動の場を継続して確保した点は、高く評価できる。	B:令和3年度並みの成果であった	さくらまつり、講演会等で健康づくり推進員と共に活動を進める。また、健康増進計画に沿って、市民を巻き込み事業を展開していく。
(2)-20	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	国立市青少年海外短期派遣事業	国立市内在住又は在学の中高生を海外へ派遣し、多文化・多様な人種の共生する社会を学習する機会を提供することで、他者理解の意識を醸成すると共に、将来のグローバル社会の担い手としての意識を育成し、世界を舞台に活躍する人材の輩出に寄与する。	児童青少年課	新型コロナウイルスの影響により事業自体を中止とした。				D:令和4年度未実施であった	新型コロナウイルスの蔓延状況を注視しつつ、事業の再開時期を検討。
(2)-21	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ローカルセッション事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、市内の地域資源等に触れながら、自分たちの活動の相互共有を図ることのできる機会を提供することで、中高生の他者理解や国立市政に対する考えを深め、また社会へ参画する意欲を高める。	児童青少年課	オープン前の矢川プラスでピタゴラ装置を共同制作する企画を実施した。	矢川プラスという新たな地域資源に触れ、活用する企画が実施できた。	もともと市のまちづくり関係のワークショップに興味を持って参加していて、この活動も中高生として事業の運営側に回ることで良かった。という子どもからの意見をもらった。	社会参加することのほか、他の学校の生徒との交流するよい機会を提供できた。	B:令和3年度並みの成果であった	実行委員会での子どもたちの意見を中心に、社会への参画の意欲を高めるための企画を検討する。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(2)-22	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども観劇会事業	文化・芸術にふれる環境を整え、国立市内在住の小中学生の豊かな成長と地域文化への愛着を促すため、児童青少年課と市民グループを構成員とした「わくわく子どもフェスタ実行委員会」による事業の一環として子ども観劇会を実施する。	児童青少年課	「わくわく子どもフェスタ」は令和3年度よりも規制を緩め実施。コーナー等は部屋の人数制限に合わせて対応したが、コーナー数は増やすことができた。ホール公演(観劇)は制限も一部のみのため、多くの観客を入れることができた。	市民団体と連携し、様々な体験の機会を提供することができた	新型コロナウイルスが落ち着いてきている中で、制限されていた体験の機会が再開され、喜ばれた。しかし、まだ人数制限があったため、希望してもできない体験もあった。	制限されていた体験の機会を提供することができた。	A:令和3年度より高い成果があった	制限が緩和されるため、さらに機会の提供を増やしていく。
(2)-23	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	稲作体験学習会	市内小学校5年生児童を対象として実施。田植え・稲刈りの他、各校の希望に応じて、稲作体験学習会拡充プランとして社会科の授業へのゲストスピーカーの派遣、調理実習への委員訪問等を行う。	南部地域まちづくり課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に留意の上、市内公立小学校8校の5年生児童を対象に実施した。収穫した米(198キログラム)は各児童に配布した。田植え:6月21日(火)実施 参加者:8校・530名 稲刈り:10月21日(金)実施 参加者:8校・522名 授業訪問(ゲストスピーカー):7校・469名 授業訪問(児童発表):1校・68名	教育委員会、農業委員会、JAとの連携・協働が順調に行われ小学生へ貴重な体験を提供できた。	地産産米や地域農業への関心が高まるともに、地元農業者との交流をはじめ、新鮮な体験を提供できた。	コロナ禍における密対策に留意のうえ、滞りなく実施できたと考え。田植え・稲刈りでは、児童が滞留しない様な運用を徹底し、また各校の訪問授業では、生徒同士の間隔を広く取り、大型スクリーンを使用した授業を行う等、可能な限りの対応を心がけた。	B:令和3年度並みの成果であった	各種団体と協議・連携し新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、より効果的に事業を実施できる様努める。 令和5年7月に農業委員の改選を迎えるため、現任からの引継ぎ等にも留意し、引き続き質の高い事業実施に努める。
(2)-24	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども向け各種運動事業	水泳・サッカーの教室を実施しているほか、東京女子体育大学・東京都多摩障害者スポーツセンターの協力により、様々なスポーツを体験できる「スポーツ子どもの日」を実施する。	生涯学習課	スポーツ子どもの日 ・実施日 R5.2.19 ・参加人数 51人 ・会場 東京女子体育大学 ・種目 体操競技、シッティングバレーボール	開催形式を2部制にするなど、感染対策を取りながら実施することができ、計画の推進に貢献できた。	市内イベントが中止となるケースが多い中、子どもが身体を動かす機会を提供したことについては好意的な意見あり。	参加定数の減や2部制を取り入れる等、感染対策を取りながら実施。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供を今後も継続していく必要あり。	B:令和3年度並みの成果であった	令和5年度実施予定。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。
(2)-25	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ファミリーを対象とした各種運動事業	東京女子体育大学の協力により、ファミリーソフトボール教室を実施する。	生涯学習課	ファミリーソフトボール教室 ・実施日 R4.11.13 ・参加人数 44人 ・会場 東京女子体育大学 ※ファミリーフェスティバル(ミニ体力測定)については、コロナにより事業中止(開催なし)	大学施設を使用し、例年並みに開催することができた。	市内イベントが中止となるケースが多い中、子どもが身体を動かす機会を提供したことについては好意的な意見あり。	オリパラ開催年ということで、講師佐藤理恵氏には金メダルや聖火トーチを持参してもらい、オリパラ機運醸成とも関連した事業となり、今後も継続していく事業となる。	B:令和3年度並みの成果であった	令和5年度実施予定。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。
(2)-26	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	しょうがいしゃを対象とした各種運動事業	身近な地域でのしょうがいのある方々のスポーツ活動の推進のため、東京都多摩障害者スポーツセンターと卓球連盟の協力により、卓球教室を実施する。	生涯学習課	卓球教室はコロナ禍における開催に関して関係者と協議し、事業中止(開催なし)。一方、しょうがいの有無に関わらずだれでも参加できるポッチャ体験教室を開催したほか、ポッチャくたちカップを開催した。 ・ポッチャくたちカップ参加人数 56名 ・ポッチャ体験教室 164名	一部事業は中止となったものの、生涯学習課が主催するポッチャ関連事業を開催することができ、計画の推進に貢献できた。	東京都多摩障害者スポーツセンターの利用制限がかかっている中で、しょうがいが思うように身体を動かすことができないため、感染対策をとりつつ、できる限り開催して欲しいとの意見があった。	東京パラリンピック開催により、パラスポーツへの理解や関心が高まっていると感じる。ポッチャをはじめ市民が気軽にパラスポーツに取り組むことができる機会の創出が求められる。	A:令和3年度より高い成果があった	卓球教室については東京都多摩障害者スポーツセンターと協議し開催を判断。ポッチャやモルックなど、しょうがいのある方々が安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(2)-27	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権週間イベント	あらゆる差別や偏見の存在しない「人間を大切にす」まちづくりを推進するため、人権週間に合わせてイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)を行う。	市長室	「くにたち人権月間2022」を実施(期間:12/1～12/28)。期間中、様々な人権をテーマとして、講演会、映画上映会、展示、ワークショップ等を開催し、約1,800人が参加。	例年12月の人権週間にあわせ啓発イベントを実施しており、令和3年度に3か月の期間で実施した同規模のイベントを令和4年度は約1か月間で実施した。	実施に当たっては、当事者や市民との協働により多くの打ち合わせを踏まえ実施した。	様々な人権をテーマとした内容を多く実施することができたが、実施の時期や実施方法について改善が必要であり、また特に若い世代の参加が課題として認識された。	B:令和3年度並みの成果であった	実施時期を若干早め、クリスマスや年末の時期に重複しないよう工夫する。また若い世代が多く参加できるよう工夫した企画を実施予定。
(2)-28	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	平和事業	国立市平和都市宣言の趣旨に沿って、市民の平和意識の啓発を目的としたイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)をくにたち平和の日等に開催する。	市長室	くにたち平和推進週間イベント(6月、座談会参加者:21人)、「ふつうの日になったのか 原爆の日」展(8月、応募作品:1,600件)、東京大空襲関連イベント(3月、座談会参加者:8人)などを実施。	例年実施している「ふつうの日になったのか 原爆の日」展では、例年通りのコトバや絵の展示のほか、象のカードにメッセージを書く取組みをしたところ、子どもが多く書いていた。直接的に平和への意識に繋がったかは分からないが、子どもが参加しやすい取組みを用意することが必要だと感じた。	「ふつうの日になったのか 原爆の日」展では、応募作品が学校1595件・一般5件(令和3年:学校1,226件・一般13件、令和2年:学校1,518件・一般68件)で、一般参加が減少している。その他のイベントでも一般参加者が少ないことが多く、参加の機会を提供しても参加に結び付かないという課題がある。	B:令和3年度並みの成果であった	くにたち平和推進週間(6月)では、難民に関するパネル展を実施。そのほか、令和4年度と同様の取組みを実施予定。	
(2)-29	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化・芸術の視点を取り入れた人権・平和啓発事業	人権・平和施策をより広く発信していくため、平和コンサートや平和文学賞など、特に文化・芸術振興の視点を取り入れた人権・平和の意識啓発を図る。	市長室	「くにたち人権月間2022」において、西東京朝鮮第一初中級学校による民族舞踊と民族器楽重奏や、アイヌ当事者によるアイヌ文化・芸術の発信等を実施。	朝鮮半島やアイヌに関連する文化・芸術を発信することで、様々な人権を身近に感じてもらい啓発事業として実施することができた。	イベントの参加者からは、多くの好意的な感想が寄せられており、継続して人権をテーマとした催しの開催を希望する声が上がっている。	より多くの市民、特に若い世代の方の参加を促す工夫を行い、人権意識の向上に寄与する啓発事業としていく。	B:令和3年度並みの成果であった	実施時期を若干早め、クリスマスや年末の時期に重複しないよう工夫する。また若い世代が多く参加できるよう工夫した企画を実施予定。
(2)-30	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	女性と男性及び多様な性の平等事業	女性と男性及び多様な性の平等参画を推進することを目的として、男女共同参画推進週間等に合わせてイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)を行う。	市長室	くにたち男女平等参画セッション・パネル展にてパネル展などを実施。レインボー月間(5月)、ジェンダー平等月間(6月)、ダブルリボンキャンペーン(11月)、アライウィーク(12月)、ミモザウィーク(3月)など。パラソル情報誌を年2回発行。12月の人権月間で、LGBTQ+に関する講演(参加者:72人)や女性支援に関する講演(参加者:75人)を実施。	啓発期間を設けてパネル展などを行っており、これまでは国立駅近くくにたち・こくぶんじ市民プラザでの展示が中心だったが、旧国立駅舎や福祉会館での展示も実施している。毎月「ふらっと!しゃべり場」(交流会)を開催し、参加者同士の交流の中で意識啓発する取組みができた。	パラソルの取組みについて認知度が低いため、広報誌に力を入れてほしい、情報誌について、現在は各施設に配架しているのみだが、全戸配布して啓発に繋げてほしいとの意見を、市民から受けた。	ジェンダー平等に関する啓発は他市に比べて充実している。一方で、関心の薄い層へ啓発の内容が届いていないと考えられる。限られた予算と人員の中で、より広く効果的に啓発していくことが求められる。	B:令和3年度並みの成果であった	令和4年度の取組みを継続していく。市民意識調査を実施し、その結果を分析した上で効果的な啓発方法を検討していく。
(2)-31	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	防災出前講座	受講希望者が聞きたい内容に合わせて防災出前講座を実施。防災意識等の高まりから市民や団体等からの開催要望が多く、引き続き様々な機会を捉えて、周知をしていく。	防災安全課	23回の講座を開催(講師派遣を含む。)	昨年度に比較して講座(講師派遣を含む。)の開催回数が多く、市民への学習機会が増えた。	引き続き、市民や団体のニーズに沿った講座を開催していく。	子育て世代や外国籍の方を対象とした出前講座を開催した。	A:令和3年度より高い成果があった	引き続き感染症対策に留意して開催する。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(2)-32	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	各種防災訓練等	各防災機関や市民等が、とるべき防災活動を実践及び防災対策について習熟し、防災機関が相互の連携体制を確立するため、各種訓練を実施していく。	防災安全課	東京消防庁・国立市・立川市・昭島市合同総合水防訓練他11種の訓練を実施	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら目的・内容に即した訓練することができた。	今後も継続的に各種訓練を行い、災害に対応する職員等の習熟度を向上させるとともに市民の防災意識をさらに向上していく必要がある。	合同水防訓練や市総合防災計画などの訓練を実施できた一方で地域と合同の訓練は感染症拡大の懸念から実施を見送った。	A:令和3年度より高い成果があった	新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった地域の訓練を実施し、市民の防災意識を向上させる。
(2)-33	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	健康ウォーキングマップ普及事業	ウォーキングによる健康づくりを推進するため、市民のワーキンググループである「ウォーキングマップづくりの会」と市が協働で、市内の見所や健康情報を掲載した全9コースからなる健康ウォーキングマップを作成。このマップを活用し、市民の方々にウォーキングを楽しんでもらう。	健康まちづくり戦略室	コロナ禍において、個人で行うことのできるウォーキングに人気があり、配布数が伸びた。14,505枚配布した。	コロナ禍において、マップを使用した事業計画がなく、今後については、検討が必要であった。	マップ愛好家などから好評であるが、全9コースの内一部のコースに人気があり、配布数に偏りが生じている。	マップを活用して一人でも多くの市民にウォーキングを楽しんでもらえるようHPにて周知を継続して行った。	A:令和3年度より高い成果があった	9コースを1枚のマップに集約し、魅力ある情報を盛り込んだウォーキングコースを再設定したものを作成予定。10月以降、一部100円の有償刊行物として販売予定である。
(2)-34	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	住宅地等安全緑化推進事業(ガーデン講習会)	緑の基本計画に基づく、市街地の緑化推進事業の一環として、緑化や園芸について学ぶ場を提供するとともに、防災や交通安全の視点も含んだ安全緑地の考え方を広く市民に浸透させ、民有地緑化を推進することを目的とする。	環境政策課	令和3年度に公開した「にたち緑のサポーター養成塾」のオンライン講座を引き続き公開するとともに、くにたち緑のサポーター養成塾をすでに受講した方向けに、実際に緑化等について学ぶことのできるくにたち緑のサポーターアドバンスコースを開講し、9名が受講した。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできたが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	オンライン講座による基礎的な学びに加え、実地による講習を実施したことで、参加者からは非常に好評であった。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできたが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	B:令和3年度並みの成果であった	新たにくにたち緑のサポーター養成塾の開講を予定している。
(2)-35	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	廃棄物処理施設見学会	市民から出される廃棄物処理の流れを理解してもらい、ごみの減量・資源化を推進するため、廃棄物処理施設の見学を行う。	ごみ減量課	施設見学会は公立小学校、大学関係者及び老人会、計10団体の実施があった。	事業を継続したことにより、様々なテーマや課題に対応した学習の支援につながった。	参加者からは概ね好評だった。	新型コロナウイルス感染症拡大が落ち着いたため、市民・団体の申し込みが少し上向きになりつつあった。	B:令和3年度並みの成果であった	継続して実施しつつ、SNS等の広報活動を強化する。
(2)-36	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	家庭用生ごみ処理容器「ミニ・キエーロ」モニター講習会	家庭から出る生ごみを減量するため、「ミニ・キエーロ」の使い方等を説明するためのモニター講習会を行う。	ごみ減量課	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、モニター講習会の規模を縮小して6回行い、47名が参加した。	家庭から出る生ごみの減量、市民の生ごみが消える実感やごみの分別意識の向上につながった。また、市民自ら試行錯誤して取り組むことで課題を認識し、それを解決する学習の支援につながった。	生ごみが減り、ごみを出す回数が減った。ごみに対する考えや分別する意識が変わったとの声があった。	新型コロナウイルス感染症が落ち着き、参加人数は戻りつつある。継続して実施しているため、関心がある市民には一定程度普及したと思われる。	B:令和3年度並みの成果であった	今後も、継続して実施しつつ、「ミニ・キエーロ」の関心がない市民にも関心を持ってもらえるよう、SNS等の広報活動を強化する。
(2)-37	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	種まきから収穫までの農業体験事業	農業のノウハウを学びながら、種まき、草取、収穫を通して体験する。	南部地域まちづくり課	新型コロナウイルス感染症対策を徹底のうえ、計26回の体験を実施(全て土曜日)。参加延べ人数は628名であった。	収穫のみ行う1DAYイベントとは異なり、種まき、草取、収穫等、長期的な視座で農業に触れていただく機会を創出できた点は、参加者から大変好評を得たと考える。時間が経過する中で、講師(農業者)だけでなく、参加者同士の交流も活性化され、市内農業や地場産野菜を支援する輪が広がる点にも期待できる。	各参加者は、自身が種まきや苗植えから携わり育てた野菜を収穫できる点について、非常にやりがいを感じていた。また、各参加者の学習意識は非常に高く、作業の合間に農業者から教授されるノウハウ等には、常に熱心に聞き入っていた。回を重ねる中で、参加者同士が顔見知りとなり、野菜作りをテーマにしたコミュニティが形成されていく点も、大きな楽しみとなっていた様に感じられる。	通年を通して、非常に満足度の高い事業を展開できた点と考える。体験日以外の作業や準備には相当の時間・労力が割かれるため、職員の役割分担をはじめ、業務効率化に向けた仕組みを検討していきたい。	B:令和3年度並みの成果であった	令和4年度同様に事業実施する。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(2)-38	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	収穫と調理体験事業	講師を招き、市内農園で自ら収穫した野菜と一緒に調理する。	南部地域まちづくり課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、飲食を伴う事業はすべて中止した。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、飲食を伴う事業をすべて中止したが、次年度は本事業を補完する事業を検討していく。	特になし。	市の指針のとおり、飲食を伴う事業は難しいことから、動画配信等の対応で本事業を補完していく。	B:令和3年度並みの成果であった	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受け、令和5年度にかけて料理系イベントの復活を検討している。
(2)-39	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	お米農家の見学と田園散策	案内人の解説を受けながら、お米農家や用水など、南部地域の田園地帯を散策する。	南部地域まちづくり課	新型コロナウイルス感染症対策を徹底のうえ、実施。参加人数は15名であった。	その他の収穫系イベントとは異なり、他要素(環境政策等)と連携して実施できた点は、参加者にとっても新鮮な学習機会となった様に感じられる。	実際に水生生物を発見できた際は、参加者から驚きや喜びのリアクションがあった。さらに水環境との関係性(例:この生物が居るという事は、水質が良い指標である)をレクチャーしていただく事で、環境学習にも発展した。	「農業(稲作)」と「水環境(水生生物)」という2つのテーマを扱うため、進行には工夫を凝らした。経路についても、より効果的なイベントとできるよう見直しを行い、一定の効果を得られた様に感じる。	A:令和3年度より高い成果があった	前年度には、イベント中「水環境(水生生物)の観察」のインパクトが強くて、稲作や米農家を通じたメッセージの印象が、比較的弱くなってしまった感があった。両者のバランスを考えつつ、引き続きイベントをブラッシュアップしていきたい。
(2)-40	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域に開かれた学校教育	現在の学校を知り、学んでもらうため、学校公開、道徳授業地区公開講座、セーフティ教室を実施する。	教育指導支援課	全市立小・中学校において、セーフティ教室を実施した。学校公開や道徳授業地区公開講座については、前年度同様、オンラインを活用・参観人数の制限等感染対策を講じて実施した。	セーフティ教室については全校で実施した。その他の活動についても、コロナ禍でも極力通常の学校活動を行えるよう工夫して実施した。	オンラインを活用し、クラスの様子を公開したが、実際に学校に訪問して参観したいという声をいただいた。	感染者数を見ながら、適宜保護者に直接が学校にお越しいただく機会を設けられるよう、学校に働きかけた。	B:令和3年度並みの成果であった	状況に応じ、通常の教育活動を実施していく。保護者が直接参観できる機会を設けられるよう、学校へ啓発をしていく。
(2)-41	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権、平和、憲法、環境、多文化共生などの事業	現代社会の課題を考えることを目的に、普遍的な課題や時事的な社会問題などの様々な学習機会を提供する。	公民館	平和(2回)、人権(1回)、憲法(4回)、ジェンダー・セクシュアリティ(2回)、環境(2回)、多文化共生(2回)等現代社会の課題を考える講座を実施。	様々な切り口から、平和、人権、近現代史などを身近な課題として捉え考えるきっかけとなる学習機会を提供することができた。	受講者の学習意欲が高く、また、受講者同士の相互作用も生まれており、憲法連続講座については受講者からの要望を受けて講座を追加した。	新型コロナウイルス感染症防止の観点から、昨年度に引き続きオンライン併用の講座を展開し、対面の講座においてもソーシャルディスタンスを確保する等の工夫図り実施した。	A:令和3年度より高い成果があった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-42	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域課題・教育機関連携事業	まちを知る、地域から学ぶこと、地域の高等教育機関との連携などを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	【実績】一橋大学連携講座(3回)、地域史講座(3回)、地域防災講座(2回)等、地域のサークルや大学等と連携して講座を開催した。	地域のサークルや大学と連携しながら、公民館だけではできないような学習機会を提供できた。	一橋大学連携講座では、市内教育機関であるエコル社、及び、一橋大学と連携し学びの幅が広い講座を提供することができ好評であった。	多様なテーマや課題に対しフィールドワークの機会を提供する等、講座の展開に工夫を図った。	B:令和3年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-43	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	社会・人文学習事業	社会を見つめ、文化をつくることを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	【実績】図書室のついで(12回)、ブッククラブ(8回)、映画会(8回)、古典講座(5回)、哲学講座(5回)、文化芸術(2回)等を実施。	様々なジャンルの作品を取り扱うことで、現代社会の問題や文化について考える機会を提供できた。	図書室のついでや映画会などは、どの回も申込開始後すぐに定員に達するほどの人気ぶりであり、参加者からは内容に感情移入しながら楽しく学べたという声が多く聞かれた。	図書室のついでや映画会などは以前は申込不要にしていた講座も昨年度に引き続きコロナ対策のため人数制限を設け事前申込制とした。映画会も途中休憩を入れて喚起を行うなどの感染対策を徹底した。	B:令和3年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。
(2)-44	〇様々なテーマや課題に対応した学習の支援	表現学習事業	表現と創作を楽しむことを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	身体表現ワークショップ(6回)、銅版画(2回)、介護短歌(2回)等を実施。	身体を動かす、絵を描く等様々な切り口から表現と創作を楽しむ機会を提供することができた。	仲間ができたことで知らなかった自分を発見することができたなど表現を通じて様々な出会いや学びを得ている声が多数聞かれた。	身体表現ではクリスマス会の発表を行うなど、対面での交流機会も持つことができた。	B:令和3年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底しながら実施していく。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択

A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった

C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(2)-45	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	公民館図書室・地域資料収集事業	読書活動振興および講座関連図書を知りやすくするため開室している。今後も図書室業務の機能充実および推進を図る。	公民館	【実績】 公民館主催講座に関連する書籍の受入、地域資料の継続的な収集・整理・保管を実施。	公民館で実施する市民が参加できる講座や催し物のテーマ・内容に関連した本を優先して収集・紹介し、市民の学びを深めることにつながっている。	講座に関する知識をより深めることができる、地域の活動の一端を知ることができる、などの声があった。	R3年度に引き続き、座席数を減らしたり、返却された本について一定期間空けてから書棚に戻すなど感染対策を行いながら開室した。	B:令和3年度並みの成果であった	引き続き公民館活動への“入り口”として、グループ活動・主催事業への関心の喚起や、市民が資料を通じて学びを深め、豊かな人間関係を育む援助となることを目指す。
(2)-46	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	図書館企画事業	講演会や講座、行事等を企画し、市民、利用者が自ら学び、活動できる機会を提供する。	図書館	講演会等を64回開催した。	講演会等を行うことで、市民に対して学習等の機会を提供したこと、本重点施策の推進に貢献できた。	概ね良い評価を得ている。	対面での実施が困難な講演会等があった令和3年度における講演会等の回数の46回と比較すると、令和4年度は成果が上がっている。	A:令和3年度より高い成果があった	以前のような頻度で実施できるようになりつつあるため、引き続き実績を積み重ねていきたい。
(2)-47	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	わくわく塾くにたち	市の職員が市政の現状や課題、政策内容などの情報や職務で得たノウハウ等を地域グループ、サークル等主催の学習会に出向き、講座を行う。	生涯学習課	令和4年度は9件の利用があり、延べ100人が参加した。講座の新設:3件	さまざまな講座メニューを用意することで、市民が行政課題を身近に考えていただくきっかけとなっている。	より自分事として行政の仕事を考えていることができたとの声をいただいた。	令和3年度より、利用件数、利用者数は伸びているが、実施講座に偏りがある。	A:令和3年度より高い成果があった	引き続き、市民を引き付けられるような講座メニューの新設等を検討する。
(2)-48	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化芸術推進事業	現在策定中の(仮称)文化芸術推進基本計画に沿って文化芸術施策を展開する。	生涯学習課	ACKTの紹介イベント、谷保村式土器(体験イベント)、冊子の発行等を行った	数や種類はまだ多くないが、年間を通じて、市民が参加できるイベントが実施できた。	もっとプログラムを開催してほしいとの声があった。	年度全体で各種事業を展開できた。	A:令和3年度より高い成果があった	拠点の活用、アートプログラムの開催、冊子の発行を行っていく
(2)-49	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	定期講話を12回(1日に2回ずつ)、派遣講話を42回、学校講話を小学校8校・中学校1校で実施。第3期伝承者育成プロジェクトを実施し、新たに7名に委嘱(東京大空襲)。伝承者を対象にしたフォローアップ会議(研修等)を年3回実施。	市立小学校全校で継続して講話を実施しており、平和学習の機会を提供できている。定期講話では、原爆・東京大空襲について市民が学ぶ機会を提供できている。市外への派遣講話も増え、広域的な平和文化の醸成に寄与している。	学校講話では、児童にとって難しいと思われる原爆や戦争に関する内容でも、熱心に聞く様子が見られる。1クラスを広島・長崎・東京の3グループに分けて講話を聞き、それをクラスで児童が相互に発表して共有するといった発展的な授業も見られた。	国立市は、被爆地である広島市・長崎市以外で伝承者育成に取り組む唯一の自治体であり、先駆的な取り組みを実施している。一方で、市民の講話参加者が少なく、市内での需要には限界があると考えられる。	B:令和3年度並みの成果であった	令和4年度の取組みを継続していく。令和5年度からは、広島・長崎原爆の派遣講話について、国立(こくりつ)広島・長崎原爆追悼平和祈念館経由で、国立市の伝承者が全国で講話ができるようになった。
(2)-50	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	「エコル辻東京」料理講習会	地産地消を目的とし、また、消費者啓発を図るため、身近な食材を用いた新しいレパートリーを学ぶ講習会を行う。	まちの振興課	令和4年9月に身近な野菜を使用したレシピでの製菓講習会を実施し、29名の市民に参加頂いた。	身近な食材を使用したレシピを学ぶことで、今後の豊かな消費生活に寄与することができたと感じる。	3年ぶりの開催ということもあり、試食会の代わりに手土産を渡すこととしたが、参加者からは高評価であった。	コロナ禍、かつ食品を扱う事業であったあったものの、先方と密に打合せを行い参加者に満足頂くことができたと感じる。	A:令和3年度より高い成果があった	令和4年度と同様に実施予定。
(2)-51	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	文化芸術講演会	市民の方々が文化芸術に対する関心を高めてもらうことを目的に、NHK事業部との共催で、美術館・博物館等で行われる企画展と関連する内容の講演会を行う。	生涯学習課	新型コロナウイルス感染症の影響で実施せず	実施できなかったため、計画の推進に貢献できなかった。	特になし。	未実施のため、なし。	D:令和4年度未実施であった	新型コロナウイルス感染の状況を見ながら、実施を検討する。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択

A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった

C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(2)-52	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	消費者講演会	消費者団体と共催で、消費者啓発を行うための講演会を実施する。毎年トレンドに合わせてテーマを変えながら、消費者の啓発および自立を図るべく継続実施していく。	まちの振興課	令和5年1月に食品添加物に関する講演会を実施し、30名の市民に参加頂いた。	消費生活において密接な「食」に関わるテーマであったため、参加者の関心も高く、理解を深めて頂くことができたと感じる。	講演後は質問が多数出て、食に関することについての関心が非常に高いことがわかった。	オンライン併用での開催としたことで、会場参加が難しい層を取り込めたのはよかった。一方、音声が聞き取りにくいといった声もあったため今後の課題とした。	A:令和3年度より高い成果があった	令和4年度と同様に実施予定。
(2)-53	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	大使館訪問スタディバスツアー	国際理解を深めるため、市内小・中・高校生を対象に、地域国際交流団体の支援を受け、大使館等の国際機関への訪問を実施する。	まちの振興課	令和5年3月に駐日エストニア共和国大使館への訪問バスツアーを開催し、市内中高生15名に参加いただいた。	大使館や日本・エストニア友好協会の多大な協力もあり、市内中高生の国際理解を深めることが出来たと思う。	国際理解やエストニアへの理解を深めることができたという参加者がほとんどであった。	別事業で交流のあった日本・エストニア友好協会に、大使館とのバップをつないでいただくところから内容の企画検討まで、多大なご協力をいただくことができ、大使館側も熱心に接していただき、非常に充実した機会にすることができたと思う。	A:令和3年度より高い成果があった	令和4年度と同様、児童青少年課と共催でバスツアーを実施する予定である。訪問場所は未定。
(2)-54	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	LINKくにたち	スポーツに対して親しみを持ってもらい、また、連帯感や達成感を共有し、市民同士の繋がりを強めることを趣旨として、大学通りでリレーマラソン等を実施する。	まちの振興課	新型コロナウイルス感染症対策を十分行ったうえで3年ぶりに開催。約5,000人の参加があった。	コロナ禍という難しい状況にも関わらず無事完了できたことで、連帯感や達成感の共有を強く達成できたと思う。	3年ぶりの復活を喜ぶ声に参加者・来場者双方から多く寄せられた。	前回の経験者が異動し勝手がわからず、また予算が非常に厳しい中での開催となったが、結果的にトラブルなく素晴らしい大会にできた。	A:令和3年度より高い成果があった	令和4年度と異なり制限なく開催できたが、雨天により昨年と参加人数はあまり変わらなかった。
(2)-55	○各種団体との連携・協働	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	大学通り緑地帯及び市内公園への花植えを、市民ボランティア、公園協力会、市内学校等の協力を得ながら、年二回実施した(延べ約600名参加)。例年実施していたイベント(桜の接ぎ木体験2回、どんぐりイベント等。延べ約120人が参加。)についても、新型コロナウイルス感染予防を徹底しながら実施した。令和5年度に公開した「	大学通り緑地帯での定期的な維持管理作業や、年二回の花植え作業のほか、学校と協働した接ぎ木体験、花植えなど、新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら実施した。	大学通り緑地帯や市内公園への花植えについては、道行く市民の方々より、好意的なご意見を多々いただいた。また、各種イベント参加者からも非常に好評を得ている。	新型コロナウイルス流行前の活動水準に徐々に戻ってきているだけでなく、新たに市民ボランティアとして活動したいという申し出をいくつも受け、ボランティア増員ともなった。	A:令和3年度より高い成果があった	引き続き市内の各団体等と連携、協力しながら、市内緑化に係る活動を展開していく。
(2)-56	○各種団体との連携・協働	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	令和5年度に公開した「	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできなかったが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	オンライン講座による基礎的な学びに加え、実地による講習を実施したことで、参加者からは非常に好評であった。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできたが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	B:令和3年度並みの成果であった	新たにくにたち緑のサポーター養成塾の開講を予定している。
(2)-57	○各種団体との連携・協働	他団体と図書館の連携事業	NHK学園の協力のもと、月2回程度、国立市民向けにNHK学園の図書館が開放され、図書や、雑誌、新聞、インターネットの閲覧等ができる。一橋大学サークルの協力により、中高生向け図書の展示や図書リサイクルを実施する。国立本店との協働により、推薦図書の展示や講座・講演会等を開催する。	図書館	・NHK学園との協力事業について随時行った。 ・一橋大学サークルの協力による事業は、中高生向け図書の展示企画を2回行った。 ・国立本店との協力による事業は、講座を1回行った。	企画等を他団体で行うことで市役所以外の価値観、視点を取り入れることができるため、市民の学習機会のさらなる充実を図ることができた。	特になし。	新型コロナウイルス、緊急事態宣言の影響で協力事業を行えないことがあった令和3年度と比較すると、令和4年度は成果が上がっている。	A:令和3年度より高い成果があった	引き続き実績を積み重ねていきたい。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
基本目標(3)学習の成果を活かせるサポートの充実										
(3)-1	○発表の場の充実	くにたち市民文化祭	市民の自主的な文化・芸術活動を支援するため、毎年1回文化祭を実施する。今後も文化・芸術活動の場の促進を図る。	公民館	【実績】参加団体16団体。参加者・来場者合わせて約3,000名程度来場。	令和3年度に比べて参加団体、参加者・来場者数は大きく増加し、市民の文化活動の機会を確保できた。	令和3年度に引き続きコロナ禍での開催ではあったが、各グループとも発表意欲が高く、市民の協力のもと文化祭を盛況に開催することができた。	コロナ禍の開催ではあったが、ガイドライン等の周知徹底によりスムーズに開催することができた。	A:令和3年度より高い成果があった	引き続き感染症対策を徹底し、公民館利用者連絡会の協力を得ながら実施していく。
(3)-2	○発表の場の充実	市民まつり・さくらフェスティバル・LINKくにたち	大学通りや谷保第三公園で行われるまつり・イベント。会場内では、様々な催し物が開催され、来場者が楽しむことができる。舞台等では踊り・歌等が披露されており、各団体にとって日頃の成果の発表の場となっている。	まちの振興課	いずれも新型コロナウイルス感染症対策を十分行ったうえで、3年ぶりに現地開催を行った。	いずれのイベントもトラブルなく、多くの来場者が訪れ、発表の場として大変好評だった。	いずれも3年ぶりの復活を喜ぶ声に参加者・来場者双方から多く寄せられた。	前回の経験者が異動し勝手がわからず、また予算も非常に厳しい中での開催となったが、結果的にトラブルなく素晴らしい大会にできた。	A:令和3年度より高い成果があった	さくらフェスティバルについては天気に恵まれ、二日共開催できた。市民まつりについては4年ぶりに制限のない状態で開催。
(3)-3	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-4	○学習の成果を活かせる場の形成	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもりを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を庁内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康まちづくり戦略室	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-5	○学習の成果を活かせる場の形成	健康づくり推進員活動支援事業	意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康まちづくり戦略室	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択

A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった

C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
(3)-6	○学習の成果を活かせる場の形成	シニアカレッジ研修	高齢化が進む社会の中で、地域で高齢者サロンの開催や生活支援活動を担ってもらえる方、市内の訪問介護・通所介護事業所に従事していただける方を養成する講座を開催する。	高齢者支援課	25回の講座を行い、12名が受講、修了した。	地域での生活支援活動等の担い手を養成する講座を開催することで、学習の成果を活かせる場の形成につながっている。	様々なテーマについてそれぞれの専門家の講義を受けられたため、研修に満足したという声が多かった。受講者同士のつながりもできていた。	受講者の満足度が高い講座を開催することができた。より受講者の地域での活動への参加につながるよう努めた。コロナ関係の事務が始まったことにより、会場の調整に苦慮した。	B:令和3年度並みの成果であった	令和4年度と内容を変えて実施する。
(3)-7	○学習の成果を活かせる場の形成	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-8	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-9	○学習の成果を活かせる場の形成	多世代交流・市民サークル交流事業	子どもと大人の世代間交流、異種サークル交流、地域人材活用のため事業を実施する。今後も多様な交流や地域人材の活用を図る。	公民館	会場調整会をコロナ対策として、公民館利用者連絡会の協力を得て、規模を縮小しながらも月1回実施した。	公民館利用者連絡会の活動の場と、会場調整会に参加した団体同士の交流の場となった。	団体同士が実際に会って、調整をおこなうことで、30分程度の単位の調整もでき、団体同士の対話も生まれていい制度であるとの声が聞かれる。	コロナ禍以前は会場調整会に毎月申込団体すべて(100人程度)がホールに集まっていたが、コロナ対策として蜜を避けるため、会場予約に重なりがあった団体のみ1週間前に掲示(館内3か所及びホームページ)して、会場調整会に参加する方法に変更して実施した。	B:令和3年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底し、公民館利用者連絡会の協力を得ながら実施していく。
(3)-10	○学習の成果を活かせる場の形成	図書館ボランティア育成事業	図書館サービスを向上させ、市民参画を促すために、研修等によりボランティア(音訳・点訳ボランティア、くにたちお話を会、えほん読み聞かせボランティア等)の育成を図る。	図書館	ボランティア活動回数が573回だった。	ボランティア活動を通じて、市民が音訳等、読み聞かせ等の学習の成果を活かせるため、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	令和3年度におけるボランティア活動回数の479回と比較すると令和4年度は実績が上がっている。これは、新型コロナウイルスの影響で実施していなかった活動が再開したことが原因である。	A:令和3年度より高い成果があった	引き続き実績を積み重ねていきたい。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A: 令和3年度より高い成果があった B: 令和3年度並みの成果であった
 C: 令和3年度より低い成果であった D: 令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア) 令和4年度の事業実績	イ) 計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ) 市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ) 担当課による振り返り	オ) 令和4年度の担当課評価	カ) 令和5年度の実施方針
基本目標(4)施設や場の拡充、職員の専門性の確保										
(4)-1	○施設や場の拡充・市民ニーズに合った施設運営	公民館会場・備品等の貸出事業	市民の自主的な社会教育活動を支援するため実施する。今後も社会教育施設として市民の自主的な学習活動の支援を図る。	公民館	【実績】サークル利用が年間4,472回。備品は、印刷機573回、液晶モニター171回、プロジェクター141回、マイクセット312回等貸出しを行った。	市民サークルの活動に役立っている。	新型コロナウイルス感染症対策の影響で活動場所が少なくなっている中、サークル活動をする上で貴重な施設として感謝の声が多く聞かれる。	利用者に感染対策のご協力いただきながら、円滑に運用できた。	A: 令和3年度より高い成果があった	引き続き感染症対策を徹底し、公民館利用者連絡会の協力を得ながら実施していく。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するよう研修を実施する。	職員課	目的・内容を満たす研修として、東京都市町村職員研修所の実務研修に図書館科があったが、業務都合により受講対象者が受講することは出来なかった。また、職員の市の歴史・文化に対する理解を深めるため、生涯学習課より呼びかけのあった郷土文化館の秋季企画展の見学を職員研修扱いとし、2名が参加した。	-	-	目的・内容をピンポイントに満たすことのできるような研修を市で実施しようとする場合、費用対効果や講師の選定といった面で難しく、市独自に研修を実施するのはあまり効果的ではないと考える。今後は、外部で行われている研修等への参加を検討したい。	A: 令和3年度より高い成果があった	令和5年度は、図書館科の研修は実施予定がない。内部の研修において、目的・内容を満たすことのできる研修の実施や他部署との連携により少しでも市民の方の生涯学習につなげることができるよう職員研修を引き続き検討していきたい。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するよう研修を実施する。	生涯学習課	具体的な研修は未実施である。	実施できなかったため、計画の推進に貢献できなかった。	特になし。	未実施のため、なし。	D 令和4年度未実施であった	職員研修を実施していく
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するよう研修を実施する。	公民館	【実績】前年度に引き続き東京都公民館連絡協議会に加盟し、年18回、31名が部会(5部制)及び研究大会へ参加した。また、社会教育主事講習を4名が延べ24日間受講した。	他市との貴重な情報交換の場となったと共に、職員の専門性向上につながった。	地域住民の学習活動を支援するうえで必要な知識を得る機会が得られたという声をいただいた。	令和4年度は公民館職場内研修も5回、延べ参加者57名で実施しており、より一層の専門性向上を図った。	A: 令和3年度より高い成果があった	令和5年度は、委員部会会長市となる。新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら実施していく。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するよう研修を実施する。	図書館	能力育成、情報交換等の研修に累計2人が参加した。	能力育成、情報交換の研修を通じ、本重点施策の推進に貢献できた。	特になし。	令和3年度における能力育成、情報交換等の研修の参加数の43人(累計)と比較すると、令和4年度は実績が著しく下がっている。これは、令和3年度では多くのボランティアの方が参加した研修があったことが原因である。ただ、仮にボランティアの人数を差し引いた場合でも研修参加人数は10人であったため、令和4年度は実績が下がっている。	C: 令和3年度より低い成果であった	より一層実績を積み重ねていきたい。

オ)の担当課評価については、以下のA~Dから選択
 A:令和3年度より高い成果があった B:令和3年度並みの成果であった
 C:令和3年度より低い成果であった D:令和4年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和4年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和4年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和4年度の担当課評価	カ)令和5年度の実施方針
基本目標(5)適切な事業評価方法の検討										
(5)-1	○生涯学習や社会教育の役割や効果を表すことのできる評価方法の検討	事業評価方法の検討	生涯学習振興・推進計画の中間評価、終了時の評価をするにあたり、定量評価と定性評価の両面からの評価をするため、評価方法の開発について検討します。	生涯学習課	中間評価を行うにあたり、評価の考え方を作成した。	評価の考え方の策定にあたっては、定性・定量両面からの評価が行えるよう検討した。	特になし。	社会教育委員の会からの意見書では令和4年度が中間評価実施年度とされていたが、令和4年度は考え方の作成にとどまった。	B:令和3年度並みの成果であった	中間評価を実施する。